

令和3年度第1回 奈良市環境基本計画推進会議の意見の概要	
開催日時	令和3年8月10日（火）午前10時00分から12時00分まで
開催場所	奈良市役所 北棟6階 601会議室
参加者	出席者6人（会場4人・オンライン2人）、事務局 3人
開催形態	公開（傍聴人0人）
担当課	環境部 環境政策課
案件	1. 「奈良市環境基本計画（改訂版）中間見直し」令和3年度（令和2年度実績）評価コメントのとりまとめについて 2. 第3次奈良市環境基本計画の策定について
資料	【資料1】令和3年度（令和2年度実績）指標評価コメントとりまとめ案 【資料2】指標別点検評価基準表 【資料3】令和3年度（令和2年度実績）担当課自己評価シート 【資料4】令和3年度（令和2年度実績）評価コメント抜粋 【資料5】第3次奈良市環境基本計画の策定について 【チラシ】ワークショップチラシ
意見等の内容	
≪意見を求めた内容及びそれらに対する意見等≫ （1）「奈良市環境基本計画（改訂版）中間見直し」令和3年度（令和2年度実績）評価コメントのとりまとめについて 「奈良市環境基本計画（改訂版）中間見直し」令和3年度（令和2年度実績）評価コメントのとりまとめについて、「奈良市環境基本計画（改訂版）中間見直し」の各指標に関する令和2年度施策実績及び担当課の自己評価に対して、参加者皆様からいただいたコメントを事務局で整理した。 今回も、より多くの意見をとりまとめに反映したいと考え、【資料4】「令和3年度（令和2年度実績）評価コメント抜粋」において、参考としたい文言を箇条書きで抜粋している。抜粋したコメントの他に、とりまとめに反映していきたいコメントや重要なキーワードなどがあればご意見をいただきたい。また、【資料1】「令和3年度（令和2年度実績）指標評価コメントとりまとめ案」において、抜粋したコメントからとりまとめ案を作成したものを掲載している。参加者皆様からいただいたご意見を元に、とりまとめ案を修正し、後日ご確認	

をお願いする予定である。その後、とりまとめ案を環境審議会委員の皆様へメールでご確認いただいたのち確定し、速やかに担当課へフィードバックする予定である。

各指標の評価コメントとりまとめ案及び総括コメントとりまとめ案についてご意見をいただいた。

○質疑・意見の要旨

<地球温暖化対策分野（シート No. 1～4）について>

【No. 1】 市域の温室効果ガス排出量

- ・排出量が大きく削減できた理由は記載されていないが、電力会社の排出係数低減が理由なのか？

→そのとおりである。電気の二酸化炭素排出係数が減少したことに伴い、電力由来の二酸化炭素排出量が減少したことが大きい要因である。

- ・排出量が排出係数に左右されるため、市民・事業者の省エネ努力が評価されない。エネルギー使用量や熱量を指標とする、もしくは係数を固定して評価するなどの方法が必要であると考えます。

- ・排出係数が低い再生可能エネルギーを中心として発電する事業者の選択を促進する啓発も重要である。

⇒地球温暖化対策分野について、コメントとりまとめ案のとおりで承認された。

<自然環境分野（シート No. 6～9）について>

【No. 6】 人工林における間伐の施業面積

- ・森林は二酸化炭素吸収源であり、林業を活性化してもらいたいと思うが、奈良市の林業の現状はどうか？

→課題としては、所有者不明の森林が多いことや、間伐した木を伐りだすための道が整備されていないことなどがある。担当課からは、国からの譲与税を活用して森林整備を促進していくと聞いている。

【No. 7～9】

- ・農業と食は密接に関連しているため、どちらも非常に重要であると考えます。農業を市民に理解してもらうための啓発も重要である

【No. 5】

- ・外来種についても大きな問題となっている。市民への注意喚起が重要である。

⇒自然環境分野について、コメントとりまとめ案のとおりで承認された。

<歴史環境分野（シート No. 10～12）について>

【No. 11】 なら工藝館入館者数

- ・次期計画の指標としては、入館者数を踏まえながら、歴史・文化への関心をどう高めていくのか、工藝館活用にどのようにつながったのかが分かるような評価方法につなげていく必要がある。
- ・数字では測りきれないものをどのように評価していくか。奈良らしさを出す重要な分野であることから、評価方法について検討していく必要がある。

⇒歴史環境分野について、コメントとりまとめ案のとおりで承認された。

⇒評価方法の検討については、総括コメントにおいて記載する。

<生活環境分野（シート No. 13～17）について>

⇒特に意見はなく、生活環境分野について、コメントとりまとめ案のとおりで承認された。

<資源循環分野（シート No. 18～23）について>

【No. 18】 ごみ搬入量

- ・ごみ搬入量と市域の温室効果ガス排出量の関係について、温室効果ガス排出量の算出においては、ごみ搬入量を使っているのか？
→温室効果ガス排出量の算出においては、ごみ焼却量を使用している。
- ・ごみの水分割合やプラスチック割合などの組成によりそれぞれ排出係数が異なるが、それらを考慮して温室効果ガス排出量を算出しているのか？
→そのとおりである。
- ・学校給食の廃棄についても重要な問題であると考える。
- ・ごみの焼却による発電は行っているのか？
→現在の環境清美工場では実施していない。新しいクリーンセンター建設に当たっては廃棄物発電についても検討する必要があると考える。
- ・分別・リサイクルの徹底を促進し、ごみ搬入量の減少を目指すことが重要であるものの、廃棄物発電をした場合、ごみ搬入量の減少により発電できなくなるという問題も起こる可能性がある。矛盾をはらんだ難しい問題である。

⇒資源循環分野について、コメントとりまとめ案のとおりで承認された。

<都市環境分野（シート No. 24～30）について>

【No. 26】 自主防災防犯組織結成率

- ・組織結成率は100%であるが、年齢構成についても評価するための情報として重要である

と考える。

- ・自主防災防犯組織については、自助、共助、公助のうち、特に自助と共助の部分であると思われるが、公助がどのように連携していくのが重要である。
- ・自治連合会が機能していない地区などもあると思われるが、自主防災防犯組織の質を高める必要があると考える。

【No. 27】 応急手当受講者数

- ・次期計画の指標として、適当かどうかについて検討する必要がある。

【No. 30】 パークアンドサイクルライドの利用者数

- ・パークアンドライドについては浸透しているように感じるが、利用者の意見などは集めて活用しているのか？

→市ではレンタサイクル利用者にアンケートを取っており、県においては県の駐車場利用者アンケートを集計している。どちらかといえば「良かった」「便利だった」というポジティブなご意見が多いが、駐輪場が分かりづらいというご意見もいただいております、利用者に分かりやすくしていくことが今後の課題であると考えます。

- ・県が作成したサイクリングマップが好評であり、ポストコロナにおいて、サイクリングは街の楽しみ方の一つとして重視されると考える。

⇒都市環境分野について、コメントとりまとめ案のとおりで承認された。

<環境教育分野（シート No. 31～33）について>

各指標についてのご意見はなかったが、環境教育推進会議についてのご意見が出された。

- ・環境教育推進会議は現在どのような状況か？

→2年程前の環境教育推進会議において、環境教育推進員への講座実施要望が少なくなっていることから、推進会議を休会することとなった。現状は、教育委員会と連携して次期計画策定において検討する必要があると考えている。

- ・環境教育はすべての分野にわたるため、非常に重要であると考えます。休会になったことも含め、整理してもらいたい。
- ・10年前に現計画を策定した際、環境基本計画推進会議と併せて環境教育推進会議を設置し、環境教育推進員を募集して登録し、推進員による出前講座（有料又は無料）を実施した。一方で奈良市地球温暖化対策地域協議会（NEW）や奈良ストップ温暖化の会（NASO）による出前講座（無料）があり、推進員による講座実施要望が伸びなかった。アフターコロナにおいては、環境出前講座の実施方法について検討する時期にきている。最近特にSDGsについての講座が求められており、講師側も新しい視点でやっていかなければいけないと感じている。

- ・学校及び地域における教育が重要であることから、今後は見直しが必要になる。大きな課題を含めていることを総括コメントとりまとめにおいて追記してもらいたい。
- ⇒環境教育分野については、コメントとりまとめ案のとおりで承認された。
- ⇒環境教育推進についての課題や今後については、総括コメントに追記する。

<全分野の総括について>

- ・SDGsが入っていて良いと思う。
- ・台風やゲリラ豪雨などが頻発しており、命を守る行動が重要となっていることから、普段の生活と激しい気象現象の関係について追記してもらいたい。
- ・3年程前から総括コメントを追加した。各指標で拾いきれなかったコメントを総括という形で掲載している。各指標別点検評価基準表については、昨年度、担当課に作成してもらった。担当課の努力目標が分かりやすいものとなり、先を考える素材になっているのではないかと考える。
- ・評価方法と環境教育については特に重要であると考えため、総括コメントに追記してもらいたい。

⇒全分野の総括について、意見を集約し推進会議の意見としてとりまとめた。

⇒意見を集約してコメントとりまとめ案を修正し、推進会議参加者へメールで確認を依頼する。

(2) 第3次奈良市環境基本計画の策定について

計画の改訂については、令和2年度から3年度にかけて実施する予定であったが、昨年度はワークショップ等の開催を見送らざるを得ない状況であった。今年度当初に入札を行い、委託事業者が一般社団法人 TOMOSU に決定した。計画改訂に当たっては、世界や国の動向とともに、奈良市が目指す方向性などについての認識をしっかりと共有するため、打合せを入念に行いながら進めているところである。

今回の改訂に当たっては、SDGs や地域循環共生圏など持続可能な未来に向けた計画策定が求められている。第3次奈良市環境基本計画のコンセプト案については、国の第五次環境基本計画のポイントを取り入れ、統合的な社会課題解決を「すべての主体の参加と協働」することを重視し、従来型の環境政策にも言及したうえで、SDGs の視点として経済・社会・環境の統合的向上を目指した計画とする。

スケジュールについては、10月頃に第2回環境基本計画推進会議を開催して計画素案に対するご意見等をいただき、11月頃に審議会へ諮問、パブコメを実施したのち、1月頃に第3回環境基本計画推進会議を開催してパブコメを受けて修正した計画案に対するご意見

等をいただき、2月頃に審議会からの答申を経て、計画策定を行う予定である。計画策定に当たっては、推進会議参加者皆様のご意見をお伺いするため、随時メールで進捗状況をお伝えしていく。

ワークショップについては、環境に限定しない形で社会に対し何か主体的に関わっていきたいと考えている人とながり、動き出す機会につなげることを目的に実施する。開催日時は8月28日（土曜日）午後2時から5時まで。現在11名の申込があるが、現在、新型コロナウイルス感染症に関して奈良市特別警戒警報が発令されていることから、オンラインでの開催も視野に入れ検討しているところである。

団体ヒアリングについて、対象とする5団体は、奈良市地球温暖化対策地域協議会幹事である4団体（奈良ストップ温暖化の会、サークルおてんとさん、ならコープ、大阪ガス）及び東部エリアのヒアリングを想定して柳生観光協会を追加した。8月にオンラインで実施する。

これまで推進会議参加者皆様からいただいていた指標の評価やご意見を第3次環境基本計画策定に当たり活用させていただき、より市民に分かりやすい計画となるよう、検討していきたいと考えている。

○質疑・意見の要旨

- ・環境基本計画推進会議の役割・位置付けは大きいと考えている。改訂に当たり、推進会議参加者へのヒアリングも調査に加えていただきたい。
- ・SDGsに掲げる169のターゲットについては、すでに取り組んでいる施策も数多くある。これまでの取組がSDGsのどの項目に当てはまるか精査する必要がある。
- ・地域循環共生圏づくりのアプローチとして示されたバックキャスティングについては、すでに10年前に策定した現計画において取り入れられており、環境・経済・社会のコンセプト案についてもトリプルボトムラインとして入っている。現計画の評価については、毎年実施している環境基本計画推進会議による評価がそれに当たるのではないかと。→いただいたご意見のとおり、現計画策定時においても目標・ビジョンを定めてバックキャスティングで施策を検討し、環境・経済・社会の統合的向上の意識を持って入れているが、改めてより市民に分かりやすい形でビジョンやSDGsについて示したいと考えている。現計画の評価については、推進会議による毎年度の評価に加えて、10年間の総括という形で、各指標の実績値をグラフで示したり、担当課の課題やビジョンをとりまとめて次期計画策定に活かしていきたいと考えている。
- ・ワークショップ申込者の年齢層や男女比はどのようになっているのか？
→10代から60代まで、男女比は半々くらい。大学生の申込もある。

・評価とりまとめについて、環境審議会で承認を得るのであれば、7月に実施した審議会より前に推進会議を実施するべきではなかったのか？

→ご意見のとおり、毎年、推進会議で評価とりまとめ案を作成し、審議会に諮ったのち確定という流れになっている。昨年度、コロナの影響により審議会を開催することができなかつたため、「奈良市の環境」や「地域実行計画実績報告」について、今年度出来るだけ早く審議会へ報告をしたいという思いがあつたため、審議会を先に実施させていただいた。今年度の評価とりまとめについては、メールで審議会委員の皆様へお送りしてご意見を伺い承認をいただく形で確定を行い、速やかに担当課へフィードバックする予定である。

- ・実績との整合性を踏まえながら第3次計画につないでいくことが重要である。
 - ・各担当課の施策がSDGsのどの項目に当たるかを認識してもらう必要がある。
 - ・SDGsはいくつかの項目に関わっていて良い。その中で特に中心となるものを把握する。
- ⇒以上のご意見を踏まえながら、第3次環境基本計画策定に反映させていく。

以上